



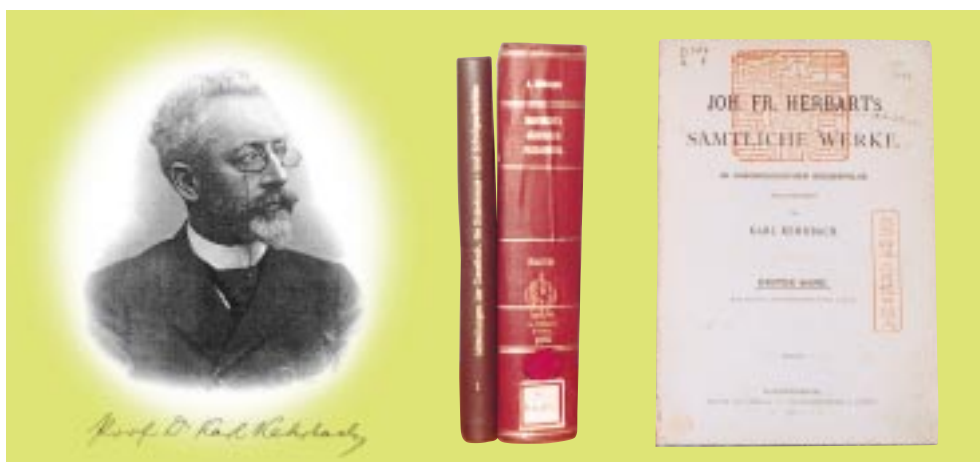
## 冊子体SCI, SSCIおよびA&HCIからオンラインWeb of Scienceへ

著者	白岩 善博
雑誌名	つくばね : 筑波大学図書館報
巻	28
号	1通107
ページ	4-6
発行年	2002-06-28
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/10494">http://hdl.handle.net/2241/10494</a>

その分析（26，32巻）などが刊行されているが，企画者で全体の編集者でもある彼が担当している巻は勿論ひとつもない。その没後には，高等学務委員会を舞台とする18世紀末のプロイセン中等教育政策の展開と大学入学試験の導入を扱ったシュヴァルツの論攷（46，48，50巻など）やフリードリヒ大王の教育政策をまとめたフォルマーの力作（56巻，彼には別にその父フリードリヒ・ヴィルヘルム 世の教育政策を扱った著書もある）なども刊行されている。最終の第62巻は，ティーレの「プロイセン教育制度史」だった。彼は，フンボルト（W.v.）の片腕であるジュフェルンの「教育法案」（1819年）の全文紹介者として知られている。MGP各巻の担当者の多くがギュムナジウムの教師だったことは，このさい注目しておいてよ

い。MGPの刊行開始からしばらく経った1890年，プロイセンでは「学校会議」が開催され，皇帝ヴィルヘルム 世の愛国心高揚の演説が教育界を酔わせていたが，ケールバッハは，その1890年に「ドイツ教育史協会」を設立し，協会の「会報」（Mitteilungen）を発行している。その「会報」は，彼の他界から5年後の1910年からは教育史の「雑誌」（Zeitschrift）と改称して，その刊行はMGPと同じ1938年まで継続した。その両者には多くの興味ある論攷や記事が掲載されているが，1905年末刊行の「会報」の第15巻第4号には，この直前に59才で世を去ったその創刊者の肖像，そして追悼と回想の記事が掲載されている。

（やまうち・よしふみ 教育学系教授 / 附属図書館長）



## 冊子体SCI，SSCIおよびA&HCIからオンラインWeb of Scienceへ

白岩 善博

Web of Science!

文部科学省の21世紀COEプログラムの申請書類の中で，「過去5年間の論文の引用率」の記載が求められるとの情報があり，本学でも各組織においてそのデータづくりのために，筑波大学電子図書館に収められているこのWeb of Scienceの恩恵に預かった方が多いのではないのでしょうか。そのため4月末にはアクセス制限がかかる程であったようである。

ちょうど1年前の6月に「Web of Scienceの無

料トライアル」が実施され，それを経てその導入についての議論が研究図書委員会においてなされた。私見ではあるが，利用結果のアンケートからは思った程の反響は感じられなかった記憶がある。年々増大する学術雑誌価格の高騰やオンラインジャーナル化の流れの中で，二次資料への費用負担は各学系にとっては悩みの種であることは現在も変わりがない。今般の多くの利用をみると，この導入は正に時宜を得た先見の明のある判断であったと思われる。多くの困難を乗り越えてこの

導入を積極的に推進して下さった山内附属図書館長や図書館員の皆様に深く感謝すると共に、予算を手当てして導入を決定していただいた学長・大学当局の英断に敬意を表したい。

冊子体SCI、SSCIおよびA&HCIとWeb of Science

附属図書館のレファレンスデスクの奥に3段の木製の書棚がある。その一番手前の2列はScience Citation Index (SCI)、Social Science Citation Index (SSCI) およびArts & Humanities Citation Index (A&HCI) という分厚い資料によって占められている(写真1)。この膨大なスペースを占有しても、15年程の資料にしかない。内容はそれぞれ自然科学(基礎科学、医学、農学、工学、行動科学)、社会科学および芸術・人文科学に関する学術論文の掲載情報で、個人の発表論文のリスト、それら個々の論文についてそれを引用した論文のリスト、それらの論文中のキーワードについて整理し、各々のキーワードを使用した論文のリストが掲載されているものである。



(写真1) 冊子体SCIの書架

これらのIndexを用いて、自分が過去に発表した論文の一つ一つについて、各年毎にどの位の論文がそれを引用しているかを調べ、それを合計することによって合計の論文引用数を算出できるようになっている。最近、研究費の申請や業績評価の際に、この引用数や引用率のデータを求められるケースが増加しており、これらのデータベースの有効性やその価値が急激に増加している。また、キーワード検索から自分の研究に関連する論文を

過去に遡って検索することが容易にできる。

Web of Scienceとは、正にこれらSCI、SSCIおよびA&HCIをコンピューターデータベース化したものである。しかも、一冊の重さ数キログラムの本におさめられ、消し粒以下の小さな文字で書かれたものを、個々の研究室でキーボードをたたくだけでその情報を大きな字で見ることができるようにしたことのメリットは大きい。

SCI、SSCIおよびA&HCIのデータベースには、自分が発表した論文が総てデータとして採用される訳ではない。出版元であるISI社(Institute for Scientific Information, Philadelphia, USA)により選別された学術雑誌等に限られている。SCIの場合、その数は1975年では2,540誌(論文数5,535,968件)で、1999年で3,633誌(同17,735,121件)となっている。そのため、学会等で新しい学術雑誌を創刊した場合にはこの雑誌に掲載されることが権威付けのための最低の必要条件となっている。1999年版では、日本で出版されている学術雑誌としては86誌がSCIに掲載され、和名の雑誌も4誌含まれている。

#### 冊子体SCIの利用

現在導入されているWeb of Scienceは1997年以降の5年間のデータからの引用に限られており、それ以前のデータを出発点とする検索については依然として冊子体を利用する必要がある。ここではSCIを例にとり、その利用により何が分かるか、そしてそれがいかに労力と時間を要する作業かの実例を示したい。勿論、筑波大学においては今さらこの本の利用法が分かってもさほどのメリットはないが、この利用を一度経験すればいかにWeb of Scienceが利用しやすいものであるかを実感できよう。ちなみに、本附属図書館における冊子体SCI、SSCIおよびA&HCIの所蔵はそれぞれ1955-99年、1966-99年および1975-99年となっている。

冊子体SCIは、1996年を例にとると一巻5センチメートル程度のもの全23巻よりなっている。それがCitation Index (1-12巻)、Source Index (13-

17巻) およびPermuterm® Subject Index (14-23巻) より構成されている。Citation Indexの場合、著者名(例えばSHIRAIWA Y)をインデックスとして引けば、1996年に出版された学術雑誌の中で引用された本人の過去の論文について、それを引用した著者名、雑誌名、巻、年号が記載されている。その数を合計すれば当該論文の1996年における引用数となる(写真2)。Source Indexの場合、著者名で引くとその著者が1996年に発表した論文のリストが筆頭著者名、雑誌名、巻、年号で記載されている。Permuterm® Subject Indexの場合、Keywords検索ができる。ある用語を引くと、その用語が使われている論文のリストが検索できる。さらに、冊子体SCIには、5年間のデータをまとめたSCI Five Year Cumulationがあり、附属図書館にある1980-84年のものは全64巻にわたっている。そのうち、Citation Indexが1-34巻、Source Indexが35-45巻、Permuterm® Subject Indexが46-64巻よりなっている。実際、Web of Scienceの利用に慣れてしまえば、この冊子体を利用するとその困難さは相当なものと実感する筈である。

#### Web of Scienceの利用価値と課題

ISI社がトライアルの際に強調したWeb of

Science利用のメリットの主なものは6項目に集約できよう。1) 引用の流れをみて研究の動向がわかる、2) 論文の孫引きの繰り返しができるので、見逃していた論文が見つかる、3) 論文のインパクトがわかる、4) 最多被引用論文がわかる、5) 異なる分野での引用が調べやすい、6) キーワードからの論文検索が容易で1945年以降のデータが対象とされている。バックナンバーの充実を含め、さらなる資料の充実とより多くの方の利用がなされるよう切に望みたい。

(しらいわ・よしひろ 生物科学系教授)

			VOL	PG	YR
MANN DH	J QUAT SCI	11	267	96	
91 B CHEM SOC JPN	64	191			
MOSELEY JD	TETRAHEDR-A	7	3351	96	
93 CROP SCI	33	804			
BONDADA BR	CROP SCI	36	127	96	
93 JPN J APPL PHYS PT 2	32	L20			
BHATTACH.E	SEMIC SCI T	11	531	96	
DANESH P	J NON-CRYST	204	265	96	
OTOBE M	JPN J A P I	35	1325	96	
SHIRAIWA Y					
83 PLANT CELL PHYSIOL	24	919			
BERMANFR.I	J PHYCOLOGY	31	906	95	
VILLAREJA	PLANTA	199	481	96	
83 PLANT CELL PHYSIOL	26	919			
MITCHELL C	POLAR BIOL	16	95	96	
85 PLANT CELL PHYSIOL	26	109			
NIEVA M	PLANT CEL P	37	1	96	
91 JPN J PHYCOL SORUI	39	355			
SATOH A	PLANT CEL P	37	431	96	
91 PLANT CELL PHYSIOL	32	311			
NIEVA M	PLANT CEL P	37	1	96	
93 J IMAGING SCI TECHN	37	385			
ARNEY JS	J IMAG SC T	39	502	95	
..	..	40	233	96	
93 PLANT CELL PHYSIOL	34	649			
ISRAEL AA	MAR ECOL-PR	137	243	96	
SCARRATT MG	MAR CHEM	54	263	96	
SEKINO K	PLANT CEL P	37	123	96	
SHIRAKABE H					
36 JPN J CLIN RADIO	1	25			
67 STOMACH INTEST	2	1005			
70 STOMACH INTEST	5	147			
OKADA M	ABDOM IMAG	21	133	96	
88 ALIMENTARY TRACT RAD	p721				
HALVORSE.RA	SEMIN ONCOL	23	325	96	

(写真2) 冊子体Citation Indexの記載例



## 本学教官寄贈著書紹介

平成14年1月～3月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介いたします。

(敬称略、寄贈者五十音順、所属は平成14年度のもので、〔 〕内は配架場所と配架番号です。)

赤木和夫(物質工学系)

- ・白川英樹博士と導電性高分子 / 田中和義共編、化学同人、2001 [中央、中央本学 578-Sh83]

伊藤益(哲学・思想学系)

- ・高橋和巳作品論：自己否定の思想 北樹出版、2002 [中央 910.268-Ta33]

入江康平(体育科学系)

- ・日置流弓術傳書拾遺その1、いなほ書房、2001 [体芸 789.5-Ky8-15]

金原礼子(現代語・現代文化学系)

- ・フォーレの歌曲とフランス近代の詩人たち、藤原書店、2002 [中央 767-Ki46]

小俣幸嗣(体育科学系)

- ・(財)全日本柔道連名審判委員会資料集、筑波大学体育科学系、2001 [体芸 789.2-Ko61-1989 / 99]